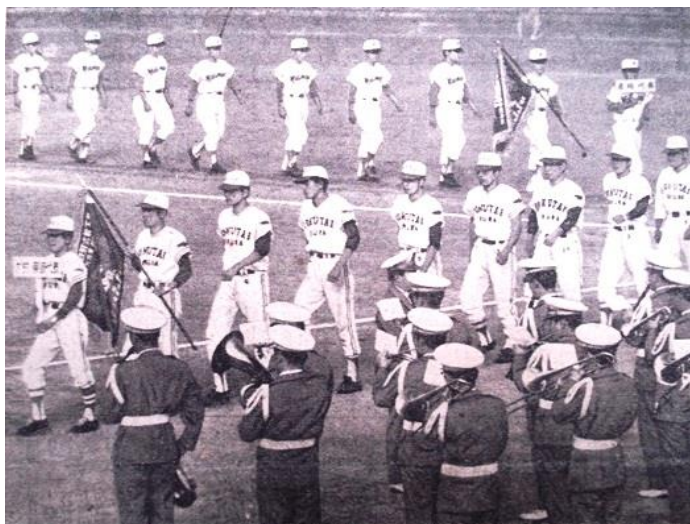
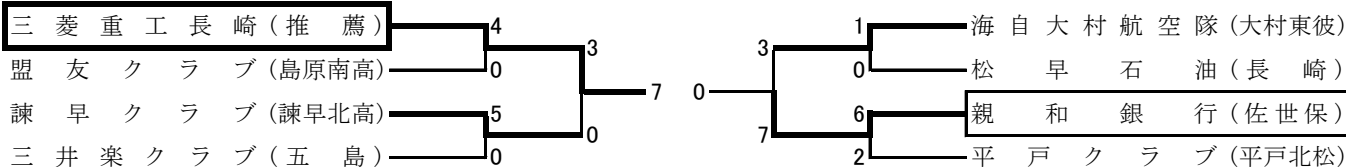


三菱重工VS親和銀行、初の決勝戦対決は重工が制す

第18回長崎県下軟式野球選手権大会

会期 昭和43年10月12日(土)～13日(日)
会場 長崎市宮大橋球場



第18回県下軟式野球選手権大会は秋晴れの10月12日、大橋球場での開会式で幕を開けた。県警察音楽隊の吹奏する勇壮なマーチにのって審判団が持つ国旗、大会旗を先頭に選手団が入場しダイヤモンドを一周して整列。古川大会副委員長(長崎新聞社事業部長)が開会宣言。優勝旗返還などに続いて主催者を代表して加藤長崎新聞社取締役があいさつ。県知事(代理)、諸谷長崎市長が祝辞を述べて、三菱重工長崎の野原富宏主将が選手宣誓を行なって開会式を終った。

引き続き投手に諸谷長崎市長、捕手に田中県国体事務局長、打者に加藤長崎新聞社取締役、球審に松浦県軟式野球連盟会長のメンバーで始球式があり、第1試合の三菱重工ー盟友クラブの試合が開始された。第1日は一回戦4試合が行なわれた。

(昭和43年10月13日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

三菱重工、無難に勝つ 盟友ク 継投策誤算で自滅

【一回戦】=第1試合= 1時間51分 振球犠盗併残失

盟友クラブ	000 000 000	0	5	4	0	0	0	4	0
三菱重工長崎	000 200 02X	4	4	8	1	4	1	8	1

(審判)伊藤、山下、上川、中田

【評】盟友ク先発の水島は三回まで無難に切り抜けたがひと回りするともうダメ。四回先頭の江崎以下に連続四球を与えて無死満塁のピンチを招いて降板。代わった金子も真崎のスライズはうまくさばいたものの、ウォームアップ不足から押し出しの四球と山田に三遊間を破られ2点。八回には一死一三塁から福岡の右中間安打と山田の中犠飛で2点を加えられ息の根を止められた。

四回は投手交代の機を誤り、八回は中堅手の拙守が傷口を傷口を大きくしたものであり盟友の自滅といってよい。それにしても盟友が放った安打2本では勝ち目は薄い。三回無死一死一二塁の先制機も無策な攻撃で潰してしまったが、ここは手堅く送って先取点を狙うべきだった。

勝った三菱も先発野原が制球に苦しみ三回二者を歩かせて降板するという誤算もあり、好守ともうひとつきりつとしたものがなかった。

【盟友】打安点	【三菱】打安点
④1 金子 4 0 0	⑥1 松山 4 1 0
⑤ 岩本 4 0 0	⑤ 橋本五 3 0 0
⑦ 笹田 3 1 0	98 是成 1 0 0
⑧ 山崎 3 0 0	② 江崎 1 0 0
⑨ 秋山 3 0 0	③5 野中 2 0 0
⑥ 藤川 3 0 0	⑨4 弦本 2 0 0
③ 芦田 2 0 0	④6 真崎 4 1 0
② 若松 0 0 0	① 野原 1 0 0
2 北田 2 1 0	13 福岡 2 1 2
①4 永島 3 0 0	R 岩永 0 0 0
27 2 0	7 中村 0 0 0
	⑦3 山田 3 1 2
	⑧ 内野 2 0 0
	H9 小崎 1 0 0
	26 4 4

《出場チームの横顔=大会前に長崎新聞に掲載された紹介記事の抜粋》

【盟友クラブ】

昨年6月に結成されたばかりだが過去3年間連続出場の有明クラブを破っての出場。高校時代の中心打者をそろえた打撃が看板のチーム。

【三菱重工長崎】

昨年の優勝チーム。今年も天皇杯、常陸宮杯両全国大会に県代表として出場。県内の軟式野球では無敗を誇っており5回目の大会出場。

【三井楽】打安点

⑥ 狩野	4	1	0
④ 岡	2	0	0
H 川上	1	0	0
⑤ 佐々木	4	0	0
② 田端	3	0	0
2 寺坂利	1	0	0
③ 福元	2	0	0
3 松尾	1	0	0
⑩ 中里	3	1	0
⑨ 桜井	3	0	0
⑧ 清水	1	0	0
1 浦	2	0	0
⑦ 寺坂国	2	0	0

三井楽わずか2安打 諫早クー、二回で決める

【一回戦】=第2試合= 1時間42分 振球犠盗併残失 (審判) 岩永、荒木、山崎、深堀

三井楽クラブ	000 000 000	0	2	2	0	0	0	4	1
諫早クラブ	230 000 00X	5	3	2	1	10	1	8	0

【二】狩野

【諫早】打安点

⑧ 毎熊	5	1	1
④ 神崎	3	1	0
⑤ 高島	2	1	1
② 田中	4	3	3
⑥ 高橋	4	1	0
③ 山口	4	0	0
⑨ 東	3	0	0
9 松本	1	0	0
① 佐藤	4	1	0
⑦ 千住	4	2	0

【評】試合は立ち上がりで決まった。諫早は初回振り逃げと四球後、重盗の無死二三塁に高島の犠飛で1点。さらに田中の内飛を一二塁手が奪い合い安打となる間に加点して先行した。二回にも球威のない中里投手に3安打を浴びせ肩の弱い相手捕手を見透かし積極的な走塁。敵失を誘ってこの回3点をあげ勝負を決めたが、三回から交代した浦を打てず追加点を挙げられない。一方、三井楽は散発の2安打。



二死二三塁から田中の中前適時打で毎熊、高島相次いで生還しダメ押し5点目。

34 10 5

【三井楽クラブ】

第15回五島体育大会、郡市対抗五島地区予選で優勝し、あっさりと五島・福江代表を決めた。全員が平均した力を持っており、外野に快足の選手をならべて守備は万全。

【諫早クラブ】

昨年春に誕生のチームだが今年の高松宮杯全日本に出場した。今年の戦績は20勝3敗。投手を中心とした守りのチームで全員コツコツと短打法に徹している。

1点を守る 海自大村航空隊

【一回戦】=第3試合= 1時間36分 振球犠盗併残失 【二】松尾健

海自大村航空隊	000 010 000	1	4	2	1	0	0	5	2
松早石油	000 000 000	0	4	3	0	1	0	7	0

(審判)米崎、平井、鈴木、森

【評】両チーム打線に集中打がなくヤマ場のない試合だった。両軍無得点で迎えた五回の大村は二死後庄司が左線二塁打。林との間にかけてヒットエンドランが鮮やかに成功、中前に弾き返し虎の子の1点をあげた。

大村航空隊は初回にも四球と野選で無死一二塁の好機があったが無謀な走塁など雑な攻めで得点は五回の1点にとどまった。

一方、松早打線は相手を上回る5安打を放ちながら無得点。大村の米村のカーブにタイミングが合わず決定打を欠いた。七回には米村と救援の山下両投手から3四球を得たが連続の封殺をくい、八回にも先頭酒田が遊撃内野安打と投手の悪投で無死二塁としたが強攻策が失敗し後続を絶たれた。松早石油の打線は全般に力に頼った振り。引っ張りすぎた感じだった。

【大村】打安点

⑤ 吉田	3	0	0
② 岩切	3	0	0
⑩ 米村	4	2	0
⑥ 山下	4	0	0
③ 白川	4	0	0
⑧ 前田	4	0	0
⑨ 上之園	1	0	0
9 渡部	1	0	0
⑦ 庄子	3	1	0
④ 林	3	1	1

【松早】打安点

② 酒田	4	1	0
⑧ 松尾武	4	1	0
④ 松尾健	4	2	0
⑨ 大塚	3	0	0
⑥ 上野	4	0	0
③ 柴田	4	0	0
⑩ 増丸	3	1	0
⑤ 永江	2	0	0
H 上田	0	0	0
1 町田	0	0	0
⑦ 松添	3	0	0

31 5 0

【海自大村航空隊】

32年第7回大会以来11年ぶり二度目の出場。今年の高松宮杯全日本2部に九州代表で出場しており、今季は23戦で20勝の戦績。自衛隊という特殊性からチームワークは抜群。

【松早石油】

初出場だが激戦地の長崎地区予選を勝ち抜いてきただけに実力派充分。予選で準決勝の十八銀行と決勝の東洋ビジネスを完封したエースの増丸に信頼が厚い。

【平戸】打安点

⑤江田	4	1	1
④亀井	3	1	0
③9肥後屋	2	0	0
⑥浦田	4	2	0
⑨鳥山	1	0	0
H93早田	2	0	0
⑧高本	2	0	0
H堤	0	0	1
8三輪	0	0	0
H津上	1	0	0
⑦木山	3	0	0
H山本	1	0	0
①大畑	2	0	0
H松本	1	0	0
②正木	3	1	0
29 5 2			

親銀逆転勝ち 平戸ク頼みの大畑ダウン

【一回戦】=第4試合= 2時間5分 振球犠盗併残失(審判)山下

平戸クラブ	000 011 000	2	5	5	1	1	2	5	3	清水、中田
親和銀行	000 023 10X	6	0	3	0	1	0	7	2	岩永

【本】虎屋【三】渡辺、元川【二】井手2、富永、江田

【評】初回、先頭の井手が二塁打しながら三盗を試みて刺され、三回には無死満塁の先制機を上位打線が簡単に打って出て、逸するなどモタモタした試合をしていた親銀も中盤に集中打の威力を見せて、平戸クラブを粉砕した。

1点差を追う五回の親銀は二死三塁で富永の右中間二塁打で同点。続く渡辺の左中間三塁打であっさりと逆転。さらに六回には元川の三塁打に始まる4長短打で3点。七回には虎屋の左中間本塁打で1点を加える猛攻ぶり。前半シュートでなんとか親銀打線をかかわしてきた大畑もこのあたりではシュートの切れも無く精魂尽き果てた感じだった。

平戸クラブは五回に江田の二塁打で1点を先行、六回には二塁手の落球からつかんだチャンスに代打堤の中犠飛で一度はタイにしたが、頼みの大畑が打たれてはしようもなかった。

【親銀】打安点

④井手	4	2	1
⑧岩下	2	0	0
H8富永	2	2	2
③渡辺	4	2	1
⑤7虎屋	3	1	1
②松尾	3	0	0
⑨元川	4	2	0
⑦5吉原	4	1	1
⑥田中	4	1	0
①宮本	1	1	0
1下田	1	0	0
1曾木	2	0	0
34 12 6			

【平戸クラブ】 結成7年目で本大会は常連組。昨年はエース大畑が使えず重工に屈したが今年は戦力的にも厚みを増し上位を狙う。投打にまとまってお中軸に大物打ちがずらりと並び、粘りも備わって侮れない存在。

【親和銀行】 平均年齢は21歳と若く、地区予選では苦戦の連続でトヨタに4-3、川下スポーツに3-2で、いずれも逆転勝ち。西肥バスを倒して2年ぶり4度目の出場。1試合3点以上は取れる打線で初優勝を狙う。



大会最終日は大橋球場で準決勝、決勝の3試合を行った。準決勝第1試合は四回に野中の殊勲の三塁打などで3点を挙げた三菱重工長崎が諫早クラブの反撃を福岡の好投で守り切った。同第2試合は立ち上がり乱戦となったが7-3で親和銀行が海自大村航空隊を破って2年ぶり二度目の決勝進出した。この結果、本大

会における初の三菱重工長崎-親和銀行の対戦は決勝戦対決となったが、三菱重工の打棒が大いにふるって7-0で大勝し大会2連覇を飾った。大会終了後両軍ナインによる長瀬ゴム(マルケンボール)提供による記念ボールの投げ入れがあった。

(昭和43年10月14日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

唯一の好機生かす

三菱重工、諫早クラブを完封

【準決勝】 1時間53分 振球犠盗併残失

三菱重工長崎	000 300 000	3	3	3	2	0	0	3	0
諫早クラブ	000 000 000	0	5	1	0	0	0	4	1

(審判)松尾、宮口、鈴木、深堀

【三】神崎、野中

【二】每熊

【三菱】打安点

⑥松山	3	0	0
⑤橋本	3	0	0
④弦本	4	1	0
②江崎	4	1	0
⑨野原	4	0	0
③野中	4	1	2
⑦山田	1	0	0
①福岡	2	0	0
⑧内野	3	0	0
28 3 2			

【評】三菱重工はワンチャンスを勝利に結びつけた。三回まで諫早クの佐藤に無安打に抑えられていたが打者一巡した四回、弦本、江崎の連打で無死一二塁。野中が0-1から真ん中高目の直球を叩いて左中間三塁打。さらに外野返球を中継した遊撃手が三塁に悪送球する間に野中も還って3点を挙げた。三菱重工の安打はこの回の3本だけで、諫早の佐藤はこの回を除けば重工打線をピタリと抑えていただけに、惜しまれる。むしろそれまでは諫早クラブが押し気味。再三のチャンスがあったが三菱・福岡の外角低目にコントロールされる球に決定打を欠いた。諫早は初回、一死後に神崎がワンバウンドで右翼手頭上を抜く三塁打を放ったが田中の痛烈な打球は一塁手正面のライナー。三回には二死から每熊の左翼線二塁打も次打者・神崎のヒット性の当たりもショート正面という不運も重なった。四回にも先取点を奪われたあせりで反撃機を潰した。先頭の高島は安打で出たが二盗に失敗。田中も四球で出て二盗死した。

【諫早】打安点

⑧每熊	4	2	0
④神崎	4	2	0
⑤高島	4	1	0
②田中	3	0	0
⑥高橋	3	0	0
①佐藤	3	0	0
③山口	3	0	0
⑨東	2	0	0
9松本	1	0	0
⑦千住	2	0	0
30 5 0			

天皇賜杯第23回全日本軟式野球大会【51チーム】

8.4~・鹿児島県鹿児島市ほか

三菱長崎造船所【一】1-4 富士重工群馬

常陸宮賜杯第4回全日本準硬式野球大会【52チーム】

6.2~・群馬県

三菱長崎造船所【一】0-14 ヤシカ(長野)

高松宮賜杯第12回全日本【1部、2部とも16チーム】

9.1~・岩手県陸前高田市ほか

【1部】

諫早クラブ【一】0-2 国際観光ホテル・ニュー名古屋

【2部】

海自大村航空隊【一】0-7 カワニ(岐阜)

★ 初のアベック出場も初戦で敗退 ★

親銀、海自大村を破る 再度登板の米村をたたく

【準決勝】 2時間4分 振球犠盗併残失

海自大村航空隊	003 000 000	3	6	3	0	0	1	3	2
親和銀行	122 002 00X	7	4	9	3	4	0	9	0

(審判)米崎、清水、上川、荒木

【三】庄子、吉田
【二】渡辺、山下

【評】両軍先発投手の不調から試合は立ち上がりから荒れ気味。海自大村の左腕・米村は四球と渡辺の二塁打で一死二三塁、虎屋三振後に松尾に四球。元山に0-3としたところで山下に代わったが、結局歩かせて押し出し。さらに三回は痛いところで遊失が出て2点を献上。

これに対する親銀の虎屋も二回まではまずまずだったが、三回四球を間に庄子と吉田に三塁打を浴びてKO。この後に代わった宮本が山下に左越え二塁打されタイとされたが、その裏の親銀は再び登板した米村を攻め、安打の2走者をバントで送り田中の適時打で2点を挙げ突き放した。六回には三番手の前田に3安打集中で止めを刺した。

海自大村航空隊は三回、前田の左前打で本塁を突いた山下が好返球に刺されリードを奪えなかったのも惜しかったが、その裏に不調の米村を再びマウンドに送ったのは解せない。山下は二回2点を失ったとはいえ打たれていないのだから続投させるべきではなかったろうか。

親和の二番手・宮本は代わりばなは危なかったが、その後は切れのよいカーブで大村航空隊に乗ずるスキを与えなかった。

【大村】打安点	【親銀】打安点
⑤吉田 4 1 2	④井手 4 0 0
②岩切 4 0 0	⑧岩下 1 0 0
①818米村 3 0 0	8富永 1 0 0
⑥16山下 4 2 1	③渡辺 4 2 0
⑧681前田 4 1 0	①7虎屋 5 1 0
③白川 1 0 0	②松尾 3 1 0
3上之園 2 0 0	⑨元川 2 2 3
H植田 1 0 0	⑤吉原 3 0 0
⑨渡部 2 0 0	⑥田中 3 2 2
H菅村 1 0 0	⑦福田 0 0 0
⑦庄子 3 1 0	1宮本 3 0 0
④林 1 0 0	
30 5 3	29 8 5

三菱重工の猛打爆発

【決勝戦】 振球犠盗併残失

親和銀行	000 000 000	0	3	4	1	0	0	5	2
三菱重工長崎	021 400 00X	7	4	3	3	0	1	5	0

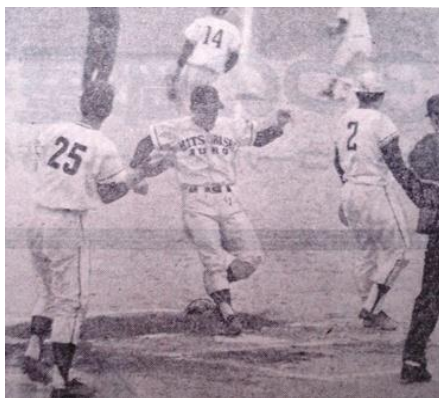
【二】福岡、松山

4回にとどめ

福岡が投打に活躍

【評】三菱重工の福岡が投打に活躍した。二回の三菱は安打と四球の二死一三塁に福岡が左中間二塁打で2点を先制。三回にも、代わった下田から先頭の松山が左二塁打、捕逸三進後に江崎の犠飛で加点。さらに四回には先頭の野中が中前打、親銀は3人目の曾木をマウンドに送ったが、急の登板で制球悪く四球を与え一二塁。続く福岡が右翼線ギリギリに落として1点、内野の犠飛に三ゴロ悪送球や橋本の適時打などで4点を挙げて合計7点を奪った。

これに対して親和銀行は三菱・福岡に抑えられてゼロ行進。七回まで好投した福岡は連投で指のマメをつぶして松山と交代したが、その八回に親和銀行は吉原と田中が連打して無死一二塁も、曾木とのバント・エンド・ランに失敗し吉原が二塁上で捕手牽制球に刺され、曾木の併殺打で反撃機も消えた。最終回も2四球走者が出たが、後続無く封じられた。



【親銀】打安点	【三菱】打安点
④井手 4 0 0	⑥1松山 4 2 0
⑧岩下 1 0 0	⑤6橋本 3 1 1
8富永 1 0 0	④弦本 4 0 0
③渡辺 4 0 0	②江崎 3 1 1
⑦5虎屋 2 0 0	⑧7野原 3 1 0
②松尾 4 0 0	③5野中 4 2 0
⑨元川 3 0 0	⑦3山田 2 0 0
⑤7吉原 3 2 0	①福岡 3 2 3
⑥田中 2 1 0	98是成 1 0 0
①宮本 0 0 0	⑧7内野 2 0 1
H1下田 1 0 0	H9小崎 1 0 0
1曾木 2 0 0	
27 3 0	30 9 6

三菱重工2回裏二死一二塁、福岡の左中間二塁打で江崎に続いて山田も生還し2点目捕手松尾、球審岩永、25番は次打者内野



★個人賞受賞者

- ◇最優秀選手賞＝福岡勝也(三菱)
- ◇首位打者＝元川好行(親和) 9打数4安打6塁打3打点
- ◇打撃賞＝田中幸穂(親和)、渡辺耐二(親和)
- ◇敢闘賞＝野中光之(三菱)
- ◇勝利監督賞＝竹本恵二(三菱)

第23回福井国体【28チーム】に一般の部は不出場

福井国体高校軟式の部

◇上五島高校◇

- 【二】 8-3 丸岡高(福井)
- 【準】 1-0 土浦一高(茨城)
- 【決】 0-2 富山商高(富山)

監督	宿輪 道孝	一塁	安田 茂且	左翼	小井田喜久男	控え	三宅 牧男
コーチ	宅島 章	二塁	小柳恵太郎	中堅	西 計幸		近藤 一利
投手	平田 満	三塁	田中 穂積	右翼	田尾 政幸		川口 茂一
捕手	飯田 巧	遊撃	松浦 武則	控え	永田 昭吾		犬塚 虎夫